

建築研究所ニユース



平成22年1月20日

**平成22年3月5日（金）に建築研究所講演会を開催します。
奮ってご参加下さい。**

建築研究所は、研究成果や調査活動の報告を通して、最新の技術情報を広く一般の方々に提供するため、建築研究所講演会を毎年開催しています。

今回は、テーマを「建研の挑戦 —安全・快適・サステナブル—」として開催します。建築研究所からの講演では、構造、環境、防火、材料・生産、住宅・都市、地震学の各研究分野の第一線で活躍する研究者が、所で取り組んでいる最もホットな研究開発課題を厳選し、いち早くご紹介しますとともに、建築研究所が行った特徴ある10件の研究開発に関するパネルの展示も行います。これにより、真に住みやすい“すまい”や“まち”の実現に向け、産学官民連携のコアとして研究開発に積極的に取り組んでいる建築研究所の今の姿を、余すところなく紹介します。また、最近、根津美術館の設計で第51回毎日芸術賞の受賞が決まった隈研吾氏をお迎えして、特別講演をしていただきます。

入場は無料、事前登録も不要。参加者にはもれなく講演内容をまとめたテキストを無料配付いたしますので、住宅・建築・都市の専門技術者はもちろん、“すまい”や“まち”に興味のある一般の方々からも、多数のご来場を心よりお待ちしております。

1. 開催概要

日時	平成22年3月5日（金）10:00～16:30（開場9:40）
会場	有楽町朝日ホール（東京・有楽町マリオン11階）
テーマ	建研の挑戦 —安全・快適・サステナブル—
入場料	無料（事前登録不要です。もれなく講演会テキストを配布します。）

2. 特別講演（建築家、東京大学教授 隈 研吾氏）

今回は、建築家で東京大学教授の隈研吾氏をお迎えし、「負ける建築」というタイトルで特別講演をしていただく予定となっています。住宅・建築・都市における様々な技術の現在の課題と今後の動向について、これまでに隈氏の創意工夫により生み出されてきた多数の作品等の紹介を通して、より深く理解できるものと考えております。



3. 建築研究所からの講演

建築研究所からは、下表のとおり、構造、環境、防火、材料・生産、住宅・都市、地震学の各研究分野の第一線で活躍する研究者が、その分野を取り巻く情勢や研究開発の状況などを全体レビューするとともに、その中で建築研究所が取り組んでいる最もホットな研究開発課題を厳選し、いち早くご紹介いたします。

	講演タイトル	講演者
1	国際地震工学研修 50 年：世界の地震・津波災害軽減への挑戦	国際地震工学センター センター長 古川 信雄
2	火災リスク評価に基づく性能的火災安全設計法の開発 －防火基準の現在・過去・未来－	防火研究グループ 上席研究員 萩原 一郎
3	近年の構造研究グループにおける研究の取り組み －長周期地震動関連の研究－	構造研究グループ 主席研究監 大川 出
4	人にも地球にも優しいすまいづくりと地域性	住宅・都市研究グループ 上席研究員 岩田 司
5	人口の高齢化と建築物の高齢化 －建築生産・材料分野－	材料研究グループ 建築生産研究グループ グループ長 長谷川直司
6	民生部門エネルギー消費量及び二酸化炭素排出量の削減対策に関する動向	環境研究グループ グループ長 澤地 孝男

以下に、主な講演に関する概要をご案内します。

(1) 国際地震工学センター「国際地震工学研修 50 年：世界の地震・津波災害軽減への挑戦」

日本が開発途上国の地震被害の防止軽減に資するよう、1960 年に開発途上国を対象に開講した国際地震工学研修は今年で 50 年（半世紀）を迎えます。建築研究所は 1962 年より研修実施を引き継いでおり、これまで輩出した修了生は 96 ヶ国、1424 名にのぼり、初期の修了生は国連機関の幹部や母国で地震工学の権威として活躍しています。本講演では、この 50 年間の取組みを振り返るとともに、今後も続く、世界の地震被害の防止軽減にむけた建研の挑戦について発表を行います。

(2) 防火研究グループ「火災リスク評価に基づく性能的火災安全設計法の開発 －防火基準の現在・過去・未来－」

建築物の安全・安心を確保するために必要な要素として、火災安全性があります。我が国においても、海外の知見も活用しつつ 1936 年に防火基準が制定されました。現在では、2000 年の建築基準法改正により防火に関する性能基準が導入されていますが、今後の防火に関するさらなる性能基準化に向けて、火災リスクを制御する考え方やそれに対応する防火設計法の開発等が重要な課題となっています。本講演では、これまでの防火基準の発展経緯を踏まえつつ、建築研究所が取り組む火災リスク評価に関する研究をご紹介します。

(3) 構造研究グループ「近年の構造研究グループにおける研究の取り組み ―長周期地震動関連の研究―」

建築物に関する安全・安心の確保にあたり、構造安全性も重要な要素です。近年では、建築物の耐震性確保、地震後の事業継続計画（BCP）への対応のほか、長周期地震動への対応等が重要課題としてあげられます。本講演では、長周期地震動に関する研究など、建築研究所が平成 18 年度以降に取り組んでいる重点的研究開発課題の状況及び成果を中心にご紹介するとともに、今後、取り組む必要があると思われる研究テーマについても触れる予定です。

(4) 材料研究グループ・建築生産研究グループ「人口の高齢化と建築物の高齢化 ―建築生産・材料分野―」

人間にしても建築物にしても、現在の時代の主役は高齢者となっています。本講演では、建築研究所が実施する3つの研究、すなわち、高齢社会における暮らし自立を支援する研究、高齢化した既存の建築物を再生・活用するための研究、建築物の耐久性に関する研究を通して、現在の主役である人間および建築物の高齢者たちに対して、建築技術がどのように貢献できるか、建築研究所として何を提示できるかを考えます。

(5) 環境研究グループ「民生部門エネルギー消費量及び二酸化炭素排出量の削減対策に関する動向」

低炭素社会の構築は、我が国のみならず世界的に対処すべき重要課題となっています。平成 21 年 9 月に鳩山首相が「温室効果ガスを 2020 年までに 1990 年比で 25%削減」という目標を示したように、民生部門とくに建築物におけるエネルギー消費に起因する二酸化炭素排出量の削減対策が求められています。本講演では、1970 年代の石油危機に始まった省エネルギー対策の経緯を振り返りつつ、建築分野に関する最近の動向と今後の方向性について考察します。

4. パネル展示

当日の会場ロビーでは、建築研究所が行った特徴ある 10 件の研究開発に関するパネルを展示します。各担当研究者は、インデクシング・セッション(11:45～12:15)にステージ上でパネル展示をする研究のポイントを数分で説明するとともに、昼休み(12:15～13:15)のコアタイムにはパネルの前でそれぞれの研究成果や今後の方針などについて説明を行い、皆様からのご質問にお答えします。

	パネル展示する研究	担当研究者
1	プレキャスト超高強度繊維補強コンクリート袖壁を用いた耐震改修技術の開発	国際地震工学センター 主任研究員 向井 智久
2	履歴型ダンパーを用いた既存建築物の耐震改修技術の開発 ～接合部設計法と性能評価法～	構造研究グループ 主任研究員 長谷川 隆
3	伝統的木造住宅の耐震性能評価と構造設計法の提案	構造研究グループ 上席研究員 河合 直人

4	戸建て住宅の敷地・基礎の耐震診断・改修技術の開発	建築生産研究グループ 主任研究員 平出 務
5	外断熱工法外壁の防火性能に関する試験方法	防火研究グループ 研究員 吉岡 英樹
6	既存木造建築物における木質部材の健全性診断法の開発	材料研究グループ 主任研究員 山口 修由
7	建物緑化の経済価値の活用	住宅・都市研究グループ 上席研究員 加藤 真司
8	人口減少下における、用途純化から用途共生への可能性を探る	住宅・都市研究グループ 上席研究員 飯田 直彦
9	生活スケジュールを模擬した実証実験による暖冷房・給湯・コージェネレーションシステム機器の実働性能評価	環境研究グループ 研究員 住吉 大輔
10	国際地震工学センターにおける研修・地震情報データベース	国際地震工学センター 上席研究員 芝崎文一郎

※ 上述の内容は変更する場合がありますので、予めご了承ください。

(内容の問合せ先)

独立行政法人 建築研究所
 所属 企画調査課
 氏名 村上晴信、森住純一
 電話 029-879-0632 (村上)
 029-879-0638 (森住)
 E-mail kikaku@kenken.go.jp

独立行政法人

建築研究所講演会

日時：平成22年**3月5日(金)**
9:40開場

場所：有楽町朝日ホール
(有楽町マリオン11F)
東京都千代田区有楽町2-5-1

— 安全・快適・サステナブル —
建研の挑戦

プログラム

- | | | |
|--------|---|------------------------------|
| 10:05~ | 理事長挨拶 | 建築研究所 理事長 村上 周三 |
| 10:15~ | 国際地震工学研修50年:世界の地震・津波災害軽減への挑戦 | 国際地震工学センター長 古川 信雄 |
| 10:45~ | 火災リスク評価に基づく性能的火災安全設計法の開発
— 防火基準の現在・過去・未来 — | 防火研究グループ 上席研究員 萩原 一郎 |
| 11:15~ | 近年の構造研究グループにおける研究の取り組み
— 長周期地震動関連の研究 — | 構造研究グループ 主席研究監 大川 出 |
| 11:45~ | インデクシング・セッション (パネル展示の短い紹介) | |
| | 昼休み パネル展示 (10課題) | |
| 13:15~ | 人にも地球にも優しいすまいづくりと地域性 | 住宅・都市研究グループ 上席研究員 岩田 司 |
| 13:45~ | 人口の高齢化と建築物の高齢化
— 建築生産・材料分野 — | 材料研究グループ長・建築生産研究グループ長 長谷川 直司 |
| 14:15~ | 民生部門エネルギー消費量及び
二酸化炭素排出量の削減対策に関する動向 | 環境研究グループ長 澤地 孝男 |
| | 休憩 | |
| 15:00~ | 特別講演『負ける建築』 | 建築家・東京大学教授 隈 研吾 |
| 16:30 | 終了予定 | |

特別講演

建築家・東京大学教授
隈 研吾



1954年横浜生まれ。1979年東京大学建築学科大学院修了。コロンビア大学客員研究員を経て、2001年より慶應義塾大学教授。2009年より東京大学教授。1997年「森舞台 / 登米町伝統芸能伝承館」で日本建築学会賞受賞、同年「水/ガラス」でアメリカ建築家協会ベネディクタス賞受賞。2002年「那珂川町馬頭広重美術館」をはじめとする木の建築でフィンランドよりスピリット・オブ・ネイチャー 国際木の建築賞受賞。近作にサントリー美術館、根津美術館。著書に「自然な建築」(岩波新書)「負ける建築」(岩波書店)「新・都市論 TOKYO」(集英社新書)

講演内容については変更する場合がありますので、予めご了承ください。

入場料・講演会テキスト代は、無料。事前登録は不要です。
名刺をご持参いただければ幸いです。

主催・問い合わせ先

(独)建築研究所 企画部企画調査課 TEL.029-879-0638

<http://www.kenken.go.jp>

